

<p>学校の教育目標</p>	<p>未来志向で考え行動・挑戦する児童の育成</p> <p>【めざす子供像】 ○自分で考え、行動できる子 ○相手の立場を理解し、互いに協力し合う子 ○見通しをもって、挑戦しようとする子 ○学校や地域を愛する子</p>	<p>経営理念</p>	<p>チーム風早小で進める学校運営</p> <p>① チャレンジ……………目標に向かって挑戦する児童・教職員 ② チェンジ……………アンテナを張り、時代を読み、変革する教職員 ③ コミュニケーション……………学校・家庭・地域が一体となり前進するコミュニティ・スクール</p>
----------------	--	-------------	---

評価計画					自己評価				学校関係者評価 ※学校の自己評価に対する評価			改善方針		
中期経営目標	短期経営目標	評価項目・指標	目標値	目標達成のための具体的な方策	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価			コメント	改善方針
					10月	2月				A	B	C		
確かな学力	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	【研修テーマ】児童の自己調整力を高め、主体的に学ぶ児童の育成～個別最適な学びの視点に立った授業づくりを目指して～	80%	・外部講師を活用し、校内授業研究年間1人2回以上行う。 ・各担任は年間1単元以上、自由進度学習をはじめとした個別最適な学びを取り入れた授業を実施する。 ・各学力検査等の結果から改善計画を各学年で立て、実践する。	89%	95%	106%	3	・各担任が年間2回以上単元内自由進度学習に取り組み、児童の実態に合わせて学習環境づくりを工夫したことで、自分に合った学習方法を選べる児童が増えた。 ・振り返りの仕方を校内で研修するとともに、児童に学習内容だけでなく学習方法の振り返りも意識させたことで、「次に生かす振り返りができた」と答える児童が増えた。 ・パワーアップタイムで「読み」に関するプリントを繰り返し行い、成果が出ている。全校を通して「書くこと」に課題が見られる。	○			学習過程の振り返りを課題にするところが前向きでよい。	児童が書きたくなるような題材の提示。ICT利用と手書きのバランスを考えて書くことへの指導をする。全学年平均以上を目指す。
		ICTの効果的な活用	85%	・ICTを活用した校内研修を年10回以上行う。 ・児童に対して、市主催のICTコンペ、タイピング大会への参加を促す。 ・効果的な活用事例を蓄積し、共有化する。	100%	100%	117%	4	・ICTを活用した研修を、生成AIや児童用ドリルパークなどの活用を中心に10回以上実施することができた。 ・ICTコンペやタイピング大会には3年以上全員で取り組むことができたが、タイピング基準にはまだ達していない児童もいるので今後も継続して行う。 ・どの学年もタブレットを授業の中で活用できている。	○			プログラミングやデジタルアートを大人も教えて欲しい。よく定着している。継続して力を高めて欲しい。	
豊かな心	向上的変容をめざす集団づくり	風早プライドの徹底(挨拶・返事)	85%	・全校朝会で呼びかける。 ・各学級による振り返りを、毎日行う。→肯定的評価90%以上 ・月ごとの振り返りを全校放送で行い、挨拶・返事のレベルを上げる。→肯定的評価85%以上	85%	92%	108%	3	・風早プライドでの取り組みや、毎週水曜日にやっている朝のあいさつ運動や、全校朝会におけるあいさつについての声かけなどを通して、自分から進んであいさつができる児童が増えた。 ・毎月の風早プライドの振り返りでは、肯定的評価は77%であった。児童が、月ごとの風早プライドやあいさつ等をより意識できるよう取り組み方法の見直しや改善が必要である。	○			地域でのあいさつはよくできている。更なる定着を目指して欲しい。挨拶の習慣付けは難しい。	
		読書習慣の定着	80%	・毎週月曜日と木曜日に、15分間の朝読書を行う。 ・読んだ本を記録する。(読書貯金) ・図書祭で、読書量の多い児童を表彰する。 ・図書委員による、スタンプラリー等のイベントの実施。	72%	79%	100%	3	・課題であった本を読むことが好きな児童の割合が7%上がった。ブックバトルや、ぐりとぐらさんによる毎月の読み聞かせを通して、積極的に本と関わる児童が増えたからだと考えられる。しかし、目標は未達成なので、継続して本と関わる機会を設ける必要がある。 ・朝読書や、読書貯金を継続して行うことで、目標読書量を達成することができた。	○			ブックバトルの効果が続いて欲しい。読書量が向上して欲しい。来年度も楽しみにしている。	ブックバトルの継続
健康でたくましい体	成長を実感できる体力・健康づくり	運動に係る自己記録の更新	80%	・準備運動に、「ラダー運動」「縄跳び」を加え、年間を通して、すばやく動作を繰り返す能力を高めていく。 ・大休憩の最初の時間に、ジャンプ運動を行い、地面をける力を高める。 ・1年間で50m走を2回実施する。 ・水泳や持久走練習の実施前に、挑戦カードを配布し、目標の記録を意識した練習を実施する。	84%	70%	88%	2	・水泳や持久走大会の練習では、目標のタイムを設定し、各々が目標のタイムに向かって練習に取り組むことができた。 ・各クラス、朝の時間に継続してジャンプ運動に取り組むことができたが、50mのタイムは全体の約半数の児童しか上がらなかった。 ・来年度は記録向上を狙う種目の見直しや、対策の見直しが必要である。	○			地域間・学校間の競争が減っている。楽しく体力向上を目指して欲しい。よく分析されている。ちょっとした条件で結果が変わるので、評価は難しい。継続した取り組みを。	市民スポーツ大会を活かす。児童に目標をもたせ、継続した取組を行う。
		基本的な生活習慣の向上	80%	・生活習慣アンケートを前後期1回ずつ実施する。 ・生活習慣に関する保健指導を児童へ実施する。 ・保健だよりや懇談会等を通して、「睡眠の大切さ」や「メディアとの付き合い方」について保護者に呼びかける。	71%	76%	99%	3	課題であった就寝起床時刻の達成度が1回目と比べ5%上がり、時間を意識した生活が高まっていた。中には早く寝ていても、睡眠が足りていないことに気が付いた児童もあり、生活の見直しを考えられる機会となった。また家庭から、「メディア時間が長い」「生活カードの生活を続けて欲しい」などのコメントが多くみられた。意識して継続し習慣化していくことが課題だと感じた。今後も家庭と連携し、指導や啓発を行っていく。	○			課題意識が、子ども・保護者に明確に示されている。保護者の評価があつてよかった。	クラス全員で生活カードを共有し、工夫を教え合う。家庭教育は基本は保護者なので、連携を行う。
開かれた学校づくりと働き方改革	コミュニティスクールの充実による学校、地域への愛着と誇りの育成	母校・地域に愛着と誇りをもたせる「地域貢献型の生活科・総合的な学習の時間」の推進	90%	・MTの招致を各学年2回以上実施する。 ・地域との連携活動を各学年1回以上実施する。 ・C.Sの校内研修を実施する。 ・C.S連絡会の定例化と、C.S推進員や地域学校協働活動推進員との連携を行う。 ・学校だより、C.Sだよりを月1回発行する。	93%	98%	108%	3	・全ての学年でMT招致と地域連携活動の実施ができた。 ・校内研修は2回実施し、初めて取り扱う”じゃぼん”について座学を行った。 ・”地域を好き”と答える児童の割合は、99.0%(前期比3.9%増)となり、学習を通じた地域住民との関わりによるものと考えられる。	○			地域を好きの評価が向上していい。とても楽しそう。	負担のない範囲で地域の行事にかかわって欲しい。
	働き方改革と業務改善の推進	教職員が健康で働きがいのある職場づくり	90%	・頑張れたこと・成長したことがあるといえる教職員の割合90%以上 ・学校は、働きがいがあると感じる教職員の割合90%以上	97%	92.5%	102%	3	・研究会を成功させることができたことで、多くの職員がやりがいや達成感を感じることができた。ただ、少人数のため組織を意識しなくてもできることも多く、業務が偏ったまま改善されなかったことがあった。校務部会を確実に実行し、学校全体の課題を組織的に解決していきたい。 ・職員の意識が高まり、70%の職員で超過勤務平均時間45時間以内が達成できた。また、職員の得意を表にまとめることができた。	○			研究会で忙しい中、よい職場づくりができています。この項目があることがすごい。働き方改革は大事である。	在勤時間45時間以内が達成できなかった30%の要因を洗い出し、改善する。体調を一番に考える。

評価★ 4…目標を上回って達成(5/6学級以上) 3…目標どおりに達成(4/6学級) 2…目標をやや下回って達成(3/6学級) 1…目標をかなり下回って達成(2/6学級以下)

評価 4…目標を上回って達成(110%～) 3…目標どおりに達成(90%～110%) 2…目標をやや下回って達成(70～90%) 1…目標をかなり下回って達成(～70%)